

添付書類1

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

学年	科目名	時間数 教員毎	単位	総時間数	担当者名	実務経験	
						有・ 無	具体的実務経験
3	看護の統合と実践Ⅰ	30	1	30	教育主事	有	病院での成人・老年看護、看護管理
	災害看護	15	1	15	専任教員	有	病院での成人・老年看護、看護管理
	精神看護方法論演習	15	1	15	専任教員	有	病院での成人・老年看護
2	看護倫理	15	1	15	教育主事	有	病院での成人・老年看護、看護管理
	母性看護援助論	30	1	30	専任教員	有	病院での母性看護
	小児看護方法論演習	15	1	15	専任教員	有	病院での成人・老年看護
	臨床看護総論Ⅱ	30	1	30	専任教員	有	病院での成人・老年看護、看護管理
	基礎看護援助論演習Ⅱ	15	1	15	専任教員	有	病院での成人・老年看護
	老年看護方法論演習	15	1	15	専任教員	有	病院での成人・老年看護、看護管理
合計		180	9	180			

科目番号	E-7	科目名	看護の統合と実践 I
対象学年	3 学年		看護倫理演習
担当講師	教育主事	実務経験	有
開講学期	後 期	単位 (時間数)	1 単位 (30 時間) のうち 15 時間
科目の目的	臨地実習で体験した看護を振り返り、知識・技術・態度の統合を図り、看護実践に必要な倫理的感受性を高め、看護専門職として倫理的な看護実践能力を養う。		
<p><授業の概要></p> <p>医療及び看護の日常の場面にある事例や自分達の体験を踏まえ、倫理的問題に気づくと共に、倫理的視点に基づいた専門職としての対応のあり方について学ぶ。</p>			
関連既習科目	倫理学、看護学概論		
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院 その他は、資料を配布		
<p><授業の展開及び内容></p> <p>第1回 倫理学の基本的な考え方 看護の倫理原則 倫理的ジレンマ</p> <p>第2回 看護倫理を学ぶ意義 看護実践上の倫理的概念</p> <p>第3回 看護実践と倫理 ケアの倫理</p> <p>第4回 生命倫理 先端医療と制度をめぐる生命倫理</p> <p>第5回 死の生命倫理と患者の尊厳</p> <p>第6～7回 倫理的問題へのアプローチ及び事例検討</p>			
評価方法	筆記試験 グループワークへの参加状況		
科目認定	成績計上の算定割合：50 点満点 50%		
備 考	<p>看護師が活動する場は多様化しており、看護師個々の倫理的視点がさらに重要となる。</p> <p>1年次に学習した倫理学を想起し、看護師として必要な考え方、倫理的問題へのアプローチの仕方を学んでほしい。</p>		

添付書類 2

科目番号	E-7	科目名	看護の統合と実践 I
対象学年	3 学年		看護研究の実際
担当講師	教育主事	実務経験	有
開講学期	前期～後期	単位(時間数)	1 単位 (30 時間) のうち 15 時間
科目の目的	臨地実習で実践した看護を振り返り、研究的視点で理論的に自己の看護に対する考え方を探求することから、看護研究に取り組む力を高める。		
<授業の概要> 実践した臨床看護を講義で学習した方法を用いて、論文にまとめ、看護観の育成を図る。			
関連既習科目	看護研究		
テキスト	2 年次のテキスト・講義資料を参照して下さい。 ガイダンスに応じて、資料を配布します。		
<授業の展開及び内容>			
第 1 回 (4 月)	ガイダンス 看護研究演習の全体計画および進め方 ケーススタディとは		
第 2 回 (6 月中旬)	疑問から研究課題へ 気づきや疑問から研究課題の絞り込み 文献検索・文献検討		
第 3 回 (6 月下旬)	研究計画書の作成		
第 4 回 (7 月)	ケーススタディの実際 (論文作成) 事例紹介 看護の実際 (データ収集およびデータ分析) 考察・結論		
第 5 回 (8 月)	ケーススタディの実際 (論文推敲) ケーススタディの実際 (論文推敲・抄録作成)		
第 6 回 (9 月)	効果的なプレゼンテーション (発表原稿作成、パワーポイント作成) 評価の実際 (自己評価・他者評価) ケーススタディ発表会の進め方		
第 7～8 回 (10 月)	ケーススタディの発表 ※ケーススタディの発表後、論文の最終修正		
評価方法 研究論文を評価表に基づいて、担当教員・担当講師が評価する (論文・発表・研究的態度)			
科目認定 成績計上の算定割合 : 50 点満点 50%			
備考 自分の看護実践を振り返り、看護を意味づけしながら自己の看護観を深めて欲しいと思います。また文献検討する力も身につけてください。提出マナーを守り、誠実に取り組む姿勢を期待しています。			

添付書類 2

科目番号	E-6	科目名	災害看護
対象学年	3学年		
担当講師	専任教員	実務経験	有
開講学期	後期	単位(時間数)	1単位(15時間)
科目の目的	災害時の看護活動に参加できる基礎的知識・技術を習得する		
<p><授業の概要></p> <p>災害発生前後に生じる問題及び看護の役割を理解できるよう学習する。そして、災害看護に関心を持ち、災害時の看護活動に参加できる基礎的知識・技術を習得する。</p>			
関連既習科目	看護学概論、基礎看護援助論、在宅看護概論		
テキスト	系統看護学講座 看護の統合と実践〔3〕 災害看護学・国際看護学 医学書院		
<p><授業の展開及び内容></p> <p>第1回 1. 災害および災害看護に関する基礎的知識 1) 災害・災害看護の歴史・定義 2) 災害の種類と被害の特徴 3) 災害に関する制度</p> <p>第2回 2. 災害医療の特徴 1) 災害時の医療の考え方・CSCATTT 2) 国内の救助活動の現状と課題 3. 災害サイクルと各期における必要な看護活動 1) 災害サイクルと災害看護サイクル 2) 各期の看護活動の場と必要なケア 4) 災害サイクル急性期の看護 (1) トリアージ (2) 治療 (3) 搬送 (4) START式トリアージの実際</p> <p>第3回 4. 災害サイクル急性期の看護活動における対応(机上シミュレーション) 1) 救護所、各エリアの考え方(グループワーク)</p> <p>第4回 5. 災害とこころのケア(DVD視聴を通して) 1) 被災者のこころのケア</p> <p>第5回 5. 災害とこころのケア 2) 救援者のストレスとこころのケア 6. 海外における災害関係各機関</p> <p>第6回 7. 学生でもできる地域への災害対策支援(グループ活動・学びの共有)</p> <p>第7回 8. 災害シミュレーション(応急処置の実際)</p>			
<p>評価方法</p> <p>演習の参加状況、課題、授業態度、筆記試験をもとに総合的に評価する</p>			
<p>科目認定</p> <p>成績計上の算出割合：科目評価計画参照</p>			
<p>備考</p> <p>近年、全国的に災害が頻発しており、災害看護における看護師の役割の重要性は高まっている。今後も起こり得る災害に向けていつでも対応できるよう看護師としての役割を理解しておくことが重要である。日頃から看護学生として、地域にも目を向けて災害対策を考えてほしい。</p>			

添付書類 2

科目番号	D-23	科目名	精神看護方法論演習
対象学年	3学年		
担当講師	専任教員	実務経験	有
開講学期	前期	単位(時間数)	1単位(15時間)
科目の目的	精神障害によってもたらされる生活障害をアセスメントし、対象の健康問題の解決能力、判断能力を身につけることができる。		
<p><授業の概要></p> <p>1) 事例を通して看護過程展開のプロセスが理解できる。</p> <p>2) 講義の知識を統合して、文章化することで思考のプロセスを明らかにする。</p> <p>3) 事例を通して看護の方法を具体化していく中で、包括的な看護展開ができる。</p> <p>4) 演習を通して主体的な学習方法を身につける。</p>			
関連既習科目	精神看護学概論、精神病態看護論、精神看護援助論		
テキスト	NANDA-I 看護診断定義と分類 医学書院 新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害を持つ人の看護		
<p><授業の展開及び内容></p> <p>統合失調症(慢性期)の患者の事例での看護過程の展開</p> <p>第1回: 授業概要の説明・事例提示および情報収集 (DVD視聴)</p> <p>第2回: 統合失調症患者の情報収集の視点 (グループワーク・講義)</p> <p>第3～5回: アセスメント(精神障害と生活障害) (グループワーク・講義)</p> <p>第6回: アセスメントの統合(関連図)、看護診断の抽出 看護診断の考え方 (グループワーク・講義)</p> <p>第7～8回: 看護計画(人間関係の確立と自立を支える援助)</p>			
評価方法	事前課題および最終課題提出の状況、授業態度等		
科目認定	成績計上の算定割合: 100点満点		
備考			

添付書類 2

科目番号	C-12	科目名	看護倫理
対象学年	2学年	実務経験	有
担当講師	教育主事	単位(時間数)	1単位(15時間)
開講学期	前期	科目目的 医療及び看護の日常の場面にある事例や臨地実習での自分たちの体験を踏まえ、倫理的課題に気づき、その解決のための基礎的能力を習得する。	
<p><授業の概要></p> <p>看護の日常の場面にある倫理的問題に気づくと共に、倫理的視点に基づいた専門職としての対応のあり方について学ぶ。</p>			
関連既習科目	倫理学、看護学概論		
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院 看護者の基本的責務 日本看護協会出版会		
<p><授業の展開及び内容></p> <p>第1回 倫理学の基本的な考え方 看護の倫理原則 倫理的ジレンマ</p> <p>第2回 看護倫理を学ぶ意義 看護実践上の倫理的概念</p> <p>第3回 看護実践と倫理 ケアの倫理</p> <p>第4回 生命倫理 先端医療と制度をめぐる生命倫理</p> <p>第5回 死の生命倫理と患者の尊厳</p> <p>第6～7回 倫理的問題へのアプローチ及び事例検討</p>			
評価方法	筆記試験		
科目認定	成績計上の算定割合:100点満点		
備考	<p>看護師が活動する場は多様化しており、看護師個々の倫理的視点がさらに重要となる。1年次に学習した倫理学を想起し、看護師として必要な考え方、倫理的問題へのアプローチの仕方を学んでほしい。</p>		

添付書類 2

科目番号	C-47	科目名	母性看護援助論
対象学年	2学年		
担当講師	専任教員	実務経験	有
開講学期	前期	単位(時間数)	1単位(30時間)
科目の目的	マタニティサイクルにある女性と新生児及び家族を対象として、ウェルネスの観点から健康問題や健康課題を明らかにし、看護を実践する基礎的能力を習得する。		
<p><授業の概要></p> <p>妊娠・分娩・産褥・新生児期の看護について講義をする。妊婦・産婦・褥婦・新生児の身体的・社会的・精神的特性をふまえ、正常なマタニティサイクルを判断するための知識と正常な経過を促進するための看護を学習する。</p>			
関連既習科目	母性看護学概論 母性病態看護論		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学 母性看護学各論 医学書院 写真でわかる母性看護技術アドバンス 改訂版 インターメディカ		
<p><授業の展開及び内容></p> <p>第1～3回 妊娠期の看護 1) 妊娠の身体的特性 2) 妊娠期の心理・社会的特性 3) 妊婦と胎児のアセスメント 4) 健康状態を保持・増進するための看護 5) 親になるための準備教育</p> <p>第4回 分娩期における看護 1) 分娩期にある対象の理解 2) 産婦・胎児・家族のアセスメント 3) 産婦と家族の看護</p> <p>第5～7回 産褥期の看護 1) 退行性変化 2) 母乳育児 3) 親役割獲得 4) 育児 5) 退院後の看護 6) 産褥期の異常と看護</p> <p>第8～10回 新生児期における看護 1) 新生児の身体的特性 2) 胎外生活への適応 3) 新生児のアセスメント 4) 新生児の看護 5) 新生児期の異常と看護</p> <p>第11～12回 妊娠期の看護(保健指導:演習)</p> <p>第13～14回 新生児期の看護(沐浴・観察:演習)</p>			
評価方法	筆記試験		
科目認定	成績計上の算定割合:100点満点		
備考	講義前に事前の課題が出されます。自ら学ぶ姿勢を重要としており、自ら学習してきたことをもとに、講義をすすめていきます。		

添付書類 2

科目番号	C-43	科目名	小児看護方法論演習
対象学年	2年生		
担当講師	専任教員	実務経験	有
開講学期	後期	単位(時間数)	1単位(15時間)
科目の目的	事例を通して健康障害を持つ小児とその家族の状態の健康問題を解決するための、臨床判断の基礎的能力を習得する。		
<p><授業の概要></p> <p>幼児期にある気管支喘息患児の事例を通して、患児および家族に対して、適切な看護ケアを行うための知識・技術を看護過程の展開やシミュレーション演習を通して習得する。</p>			
関連既習科目	解剖学、生理学、疾病論、薬理学、臨床看護総論、基礎看護方法論、小児看護学概論、小児病態看護論、小児看護援助論		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔1〕小児臨床看護総論 系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論 NANDA-I 看護診断定義と分類 医学書院		
<p><授業の展開及び内容></p> <p>第1回 小児のアセスメントの視点 第2～3回 アセスメント 第4回 看護問題の明確化 第5回 計画の立案 第6回 プレパレーションの実際 第7～8回 シミュレーション演習</p>			
評価方法	授業への参加状況、課題レポートで評価する。		
科目認定	成績計上の算定割合：科目評価計画参照		
備考	<p>具体的な計画は、授業前に説明します。疾患の病態生理、治療・処置、看護、小児の成長発達については、しっかり学習をして臨んでください。個人ワークもあるため、計画的に学習を進めていきましょう。そして、グループで協力して自分たちで学ぶ楽しさを感じてほしいと思います。</p>		

添付書類 2

科目番号	C-9	科目名	臨床看護総論Ⅱ
対象学年	2学年		
担当講師	専任教員	実務経験	有
		開講学期	後期
単元の目的	診察、治療、処置を受ける対象の特徴を理解し、診察、治療、処置時に必要な基本的援助技術を習得する。		
<p><授業の概要></p> <p>生体は生命を維持するためのエネルギー生産のため酸素を必要とする。疾病および障害により体内に酸素を十分に取り込むことが困難となった対象に対しての援助として酸素療法・吸引について学ぶ。診察の補助技術である酸素療法と吸引について、その目的や方法を理解し、安全にエビデンスに基づいた技術を習得する。</p>			
関連既習科目	解剖学、疾病論Ⅰ・Ⅱ(循環器・呼吸器)、治療論Ⅰ・Ⅱ、基礎看護援助論Ⅲ・Ⅴ、成人看護学概論		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕臨床看護総論 医学書院		
<p><授業の展開及び内容></p> <p>第1～2回 手術療法を受ける患者の援助 1)手術前の看護 2)手術中の看護 3)手術後の看護</p> <p>第3回 救急治療を受ける患者の援助 1)救急治療を必要とする患者の特徴 2)救急治療を受ける患者の援助(一次救命処置)</p> <p>第4～5回 酸素療法の目的・種類・適応、合併症、吸入の方法</p> <p>第6回 輸血療法</p> <p>第7～9回 吸引(口腔・鼻腔・気管内吸引)の目的・種類・適応、吸引の方法</p> <p>第10回 安静療法を受ける患者の援助 1)安静療法の基礎的知識 2)安静療法を必要とする患者の特徴 3)安静療法を受ける患者の看護</p> <p>第11回 食事療法を受ける患者の看護 1)食事療法の基礎的知識 2)食事療法を必要とする患者の特徴 3)食事療法を受ける患者の看護</p> <p>第12回 放射線療法を受ける患者の援助 1)放射線療法の基礎的知識 2)放射線療法を必要とする患者の特徴 3)放射線療法を受ける患者の看護</p> <p>第13～14回 リハビリテーションを受ける患者の援助 1)リハビリテーションの基礎知識 2)リハビリテーションを受ける患者の理解 3)リハビリテーションを受ける患者の看護</p>			
評価方法	科目終了試験、授業・演習の参加状況		
科目認定	成績計上の算定割合：科目評価計画参照		
備考			

添付書類 2

科目番号	C-11	科目名	基礎看護援助論演習Ⅱ
対象学年	2学年		OSCE
担当講師	専任教員	実務経験	有
開講学期	後期	単位(時間数)	1単位(15時間)
単元の目的	対象の状況を根拠に基づき判断し、学習した知識、技術、態度を統合し、必要な看護が実践できる基礎的能力を習得する。 実践した看護を振り返り、自己の傾向と課題を明らかにする。		
<p><授業の概要></p> <p>看護学概論・基礎看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学習した知識・技術・態度を統合し、事例を通して、対象の個別性に配慮した看護が実践できる基礎的能力を身につけることを目標としている。</p>			
関連既習科目	基礎看護援助論Ⅰ、基礎看護援助論Ⅲ、基礎看護方法論		
テキスト	看護学概論・基礎看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで活用したテキスト		
<p><授業の展開及び内容></p> <p>第1～4回 1. 授業の進め方、オリエンテーション、事例提示 2. 個人ワーク・グループワーク・実践計画立案と実践練習 (患者の状態把握のための情報収集・アセスメント)</p> <p>第6～7回 1. OSCE(客観的臨床能力試験)</p> <p>第8回 1. 振り返りとまとめ</p>			
評価方法	授業・演習の参加状況、課題提出状況、演習時の技術課題到達度で評価する。		
科目認定	成績計上の算定割合：科目評価計画参照		
備考	<p>これまで学んできた疾病・治療・看護の知識と基本的看護技術を活用し、事例をもとに対象にあった看護実践ができるようにしていきましょう。この授業では新たな学習内容ではなく、これまで学んできた知識・技術をベースとし、患者の理解とそれらを踏まえ状態や状況に合わせた看護実践を目標とします。演習・グループワークが中心となるとともに、技術の到達度が評価の基準になりますので、積極的に演習に参加し、技術練習に取り組みましょう。</p>		

添付書類 2

科目番号	C-33	科目名	老年看護方法論演習
対象学年	2 学年		
担当講師	専任教員	実務経験	有
開講学期	前期	単位(時間数)	1 単位(15 時間)
科目の目的	加齢や既往疾患により生活援助が必要な、脳血管性認知症の慢性期にある高齢者の事例と、大腿骨頸部骨折によって治療・リハビリテーションが必要な回復期にある認知症高齢者の事例を通し、加齢変化による日常生活の変化や日常生活で起こりやすい問題を解決するための、臨床判断の基礎的能力を習得する。		
<p><授業の概要></p> <p>脳血管性認知症の慢性期にある高齢者の事例、大腿骨頸部骨折によって回復期にある認知症高齢者の事例を中心に、老年期の看護過程の展開の視点と特徴を理解する。認知症高齢者やその家族に起こりやすい問題や状況をアセスメントし、看護計画を立案する。</p>			
関連既習科目	疾病論Ⅳ、治療論Ⅱ、基礎看護援助論Ⅰ～Ⅴ、基礎看護方法論、老年看護援助論		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021-2023 医学書院 生活機能からみた老年看護過程 医学書院		
<p><授業の展開及び内容></p> <p>第1回 老年看護における看護過程の展開の特徴 1) 高齢者のアセスメントに必要な視点 2) 高齢者と家族の特徴を考慮し強みを活かした計画立案の視点</p> <p>第2～3回 介護老人保健施設に入所中の認知症高齢者の看護 (VRでのシミュレーションを通しての臨床推論・臨床判断)</p> <p>第4～8回 慢性疾患回復期にある認知症高齢者の看護 (VRでのシミュレーションを通しての臨床推論・臨床判断)</p>			
評価方法	授業への参加状況、参加態度、提出物で評価する。		
科目認定	成績計上の算定割合：科目評価計画参照		
備考			